

三郷学で構想する まちづくりワークショップだより

第7号

平成22年
12月16日発行

- ◆〒341-8501 埼玉県三郷市花和田 648 番地 1
- ◆電話：048-930-7763 / FAX：048-953-1169
- ◆ホームページ：http://www.city.misato.lg.jp/
- ◆三郷市 企画総務部 企画調整課

「第4回三郷学で構想するまちづくりワークショップ」！

〈三郷学講座カリキュラム〉〈三郷学検定〉

… 前号から続く。

はじめに、

三郷学講座カリキュラム・三郷学検定・政策形成ハンドブックについて、ワークショップの参加者から出されたたくさんの意見を班毎にまとめた後、全ての参加者の前で各班の発表者から発表を行いました。（発表内容は、第6号に掲載されています。）



〈ワークショップでの発表の様子〉



次に、今回のワークショップ全体を通じてお手伝いいただいている龍谷大学法学部の土山希美枝准教授から、各班の発表について、各班の発表の後、次のようなコメントがありました。

(土山准教授のコメント)..... 以下、土山先生のコメントを事務局で取りまとめたものです。

どうも皆さんお疲れ様でした。議論していると以外に3時間ってあっという間だなという感じになってきているんじゃないかなという風に思います。どの班も、それぞれ個性があって違うのが出てきたかな、同じテーマでやっても、これくらい違うものがでてくるんだなというのがとてもよく解りました。

1班は、やっぱりいろいろな内容が沢山できてきましたね。三郷学でこんな事をやりたいっていう内容が沢山できてきましたね。しかも、ここでも歴史だとか自転車利用どう普及させるかとか、まちづくりの事ですか、未来を考えるとかですね。誰かに教えてもらうというよりも、皆で考えていく事でまちのかたちを深く知っていくことができるし、それを作っていくみたいな項目があったのがとても印象的でした。図書館の優先チケット、図書利用の優先チケットっていうのはいいなと思いました。

2班では、全体の振り返りから入ったというところですね、こちらの方は1班とは対照的に、むしろ中身よりどうやってやっていったらいいんだろうという事をむしろ詳細に詰めていただいたなという風に思っています。その声は若い人を中心に、郷土愛をどうやって皆の中で育てていくかという事を対象とされていました。じゃあ、そのためにはどうしたらいいかという事を1班とまるでセットでやっていたのかなという位、1班の方では中身の事を考えられていて、2班の方ではそれをどうゆうやり方でやっていくか、どこにターゲットを置いていくかっていう事を熱心にご議論いただいているなという事が印象的でした。

3班は、市の魅力のポテンシャルの高さだとか、誰が対象か。市が先導役でありながら三郷学を発展させようという意欲のある人達のこと書かれておりました。3班さんの発表を聞いていて感じたのは、もう1回自己紹介から始めましたという事をおっしゃっていただいたんです。やっぱり話しやすい空気と話しやすい環境とか、場の空気を作るという事に、そこをすごく意識されていたという事は、これまで何回かワークショップしていたと思うんですけども、ワークショップで一番大事なある意味基盤のところですね。そこを意識されていたかどうかは聞いてみたいと思っていたんですけど。特に場の空気や話しやすさ。また相手を知るという事ですね。その中から、ただ単に仲良く



〈コメントする土山准教授〉

しましようという事でなくて、そこからお互いやりとりを深めながら、深く潜っていきましょうというアプローチをされていたと思います。で、目的については時間がなかったという風におっしゃっていただいたんですが、お話の中身を観ているとですね、市のポテンシャルの高さという事をキーワードにされていて、そのポテンシャルをどう引き上げていくのかという時に、言葉にはなってなかったんですが、目的も十分意識されていたんじゃないのかなあという風に思いました。